



石塚夫人
甲十人
刺番
歌合

~ 4
2268



石塚大人判
四十八番歌合

利
2968

利4
2.268
門
編
卷

一 番

野外歌

左

讀人不知

春の初めわが 錦け乃わらふも 同くことうに 三三三哉

右勝

方朗 高林舎人

春の初めわが 錦け乃わらふも 同くことうに 三三三哉

九片ケノケハ 明ノ意ナレハアルト 言まナレリ又アサチノトミアリテ

野ト云フノナキモロシ

右少エハスレ四ノ句 控アルべし たらこあはしき 樹のいれり ぬきあもよひの

生(る)物トセムカ 大ナル難ナキヲ勝トス

二番

九持

清方

金原内藏助



ゆふうーゆもーとナドコソ持

五番

丸勝

読人不知

春、鳥をらわううう春のやけいむりのうみけやんも
右 次長 林喜左衛門

ゆとけーなとわふしほもはほ姫の鳥のうもろくはゆめあ

丸中エタリ但し二句五ツメニケリトスヘレ勝ハサラし

右二句ハヤコ、ニテハ中クルレカケテホス棹トイヒカケタルカ棹ノカナハ

ことサホ姫ハワホナレハ假字透一リ絡ウモイカ、し

六番

丸

元尚

嘉吉勝

さのふゆこのとりしゆよはゆめぬのもろろあをるるもろろをみわわ

右

読人不知

はゆわら衣のつゆもあまもあまよこむらむらとりの原

丸二句ノコレト云ヘキ礼し四五句鳥ノ西ノカハリタルヤウニキコエテ

ニキラハシを靴の鳥はあまろくえりセリトスヘシ

右衣ノ羽ふツミシアレハナドハヨメドタ、ニツミトヨメル例アリヤフトハ思

ヒイデスコ、ハスソト云ヘキ礼ナルヲ武藏中ニツキテツミトイヘルコチ

ナレ衣ノワテノ鳥ニラモルト云モイカ、し持

七番

丸

宗輔

鈴木宗輔

十番 山間賞

九勝

六如

山の初雪は下は厚きと傳へるはなほうらひまの初

右

元尚

春の初雪は下は厚きと傳へるはなほうらひまの初

九初句ねト三ノイカ、し山帯ハトスヘレ勝

右初句きーいこート云ヘキワ、し三句はトイセハトイヒテハ夏

トイヒカケタルヤウニキコエテイカ、し三句ハトセハ此難ハノガル

ベレ結句ハ数ノ間ノ字ニワトレ次ハモ間ノ字ノ意ニワキ多シ

十一番

九指

猿人不知

あんとて一花のなとりやをいほ山は白きうらひに鳥のうら

右

清方

春の初雪は下は厚きと傳へるはなほうらひまの初

九ナグリヲシトハ古ノヨキニハヨサクナキヤウニオホユヨクハ例

ヲ考フベレ四ノ句カリカテハイテカテナルヘキ也

右初二句都人の心は初トナクテハタラハズ谷ノ戸モワロシ

十二番

九

方訓

山の初雪は下は厚きと傳へるはなほうらひまの初

右勝

宗輔

春の意とゆふ山もあつゝいひのふらふらあめぬと驚きとす

丸声ハ霞ニウツモル、物ナラズバ雪ハ消テモ霞ニ埋ムト云報きをカ
タシニ三四ノ句古来の意ハ清くもゆふらとあめナド多クヤ三ノ句もモ

コレ

右三句つゝいひコレもあめぬのトスベシ晴

十三番

九勝

一ツ女

あつゝ人もあつゝいひあめぬのまきまきとあつゝいひてあつゝ

右

敏系木

敬をよ敷れとすゝと驚けりしあつゝいひの山よあつゝいひ

丸声たたく山いひあつゝいひのちナル上ニナドヤナドノ詞ナクテラムトニリ

丸声古あハアレ氏今ハコノマシカラズ一モハヤエタリ

右四ノ句をモジノ用ヒカニヲサナシニ四五ノ句あつゝいひあつゝいひの山

寫トスベシカド題ノ間ノ字ノ意ハウツレハ番九勝ナルベシ

十四番

九勝

後人不知

春きりとゆふゆふはあつゝいひのあつゝいひのあつゝいひ

右

同

了急せまハれのももあつゝいひのあつゝいひのあつゝいひ

丸声コレサレト三ノ句いひあつゝいひノ方ニナルシ雪キ支ト木毎ノ後ト詞をたす

右初ノ句いひト云キサレト三ノ句あつゝいひのあつゝいひのあつゝいひ

ト云ハシ

十五番

十八番

左勝

次長

まづこゝも人もゆきつる山けハぬえうぬよりいふれぬ

右

後人不知

石のみちりぬ山けゆふくえしてゐるれよりなるいふれぬ

左郭公ナドノ如ク尋ネテキクトヤウニヨメルニヨサシ見アタラス初白

ゆいぬふトスベシ田山けはぬえうぬのトセム

トメ右味しひりよふい

十九番

左勝

後人不知

まづおこしとふくまの雲のえい人もくきくわいひふのぬ

右

後人不知

梅まぶさくふあしやきくむすしの松よりいふれぬ

左初白ワロシ三右枝モイカニ先立れしむきぬれをばトスベシ

右梅ノカララネバ管ハナカヌモクヤウニサエタイカニ結句をワロシ管はり

トス(レ)上よ^ニやらんトスハ必ス也云トハイヌ何しコレヲ言葉ノ手緒ニ委

レ見玉へ

二十番

橋邊花

左勝

後人不知

まづおこしははやくむすし川せとより花のうれん

右

清方

春の帯てゆきり人もゆく雲はゆらゆらしるの橋ひの

らう葉よふふきうらう山風の中はつ絶ぬる葉のふも

右勝

後人不知

手に川よいはれりたるんるけのゆるりまのふもさうく

丸三句^{くく}トナタハ語ヲナス四句は^くワロシ中^くを^く後^くモトス^く

右中ナリ

右四書

丸持

真如

ゆふつく志のうれれ中絶てうらわうまう青梅のは

右

後人不知

枝は其わらうし^くのふ^くより^くふ^くゆ^くま^くわ^くる^くま^くよ^くの^くけ^くこ^く

丸三句で文字用ヒサ、ワロシ左ハモカル例ヒ氏ガク、ニヨルフ^く此ガモ

青梅ノ梅ヲウチワスニツラテふノ錦ノ中多クサテナラハソソモモハ叶メサハ

キコエバ^くハ^く又^く青梅ノ梅近^くハ^く名^く取^く止^く氏^く顯^く示^くニ^くイ^くカ^くシ

右三句倍し^くの^くの^くの^くト^くソ^く三^く句^くと^くま^くより^くナル^くレ^く四^く五^く六^く花^くガ^くキ^くカル^く谷^く川

。梅トス^くレ^く印^く白^くハ^く枝^くを^くハ^くトス^くレ^く持

右五書

丸勝

心来

わの中もふよ^くを^くきて^く山^く梅^くなり^く絶^くわ^くる^くの^くも^くよ^くの^くけ^くこ^く

右

後人不知

を^くの^くも^くも^くを^くし^くた^くよ^くの^くけ^くれ^くと^く絶^くる^くの^くふ^くの^くわ^くる^くま^くは

丸四句^く足^くつ^くと^くわ^くる^くト^くス^くレ^く見^くルト^くナ^くガ^くルト^くハ^く全^く体^く別^く言^くし

右異ヤウナルイヒサ^くシ^く丸勝

結句ノを。モジモト、ハズ

右キコタリ勝 二万五匹見向トセム

右九番

丸

後人不知

うらわきも新も治くはゆり花の香は向のつよは

右勝

一ヶ女

ふ橋 咲くはより新をくはゆり花の香は向のつよは

丸 初見わいせハトヤイハニシロウはハヤトセムカ凡テ題福六世三太

テ云地名ヲ云ヘキニ、ノツギ橋ニ云ヲヨミ合セタル古歌アリヤ

右の勝 但レニウリふと免レ一よりトスレ

三十番 寄松意

丸持

松さひうねりもあゝ末のゆつふもあゝ袖さうりりやうえきふ

右

結こゆる人々もたれくものまにゆつさくやくしこの松風

丸 寄山意ノ歌トコキコエ

右 寄風意ノ歌トキコエ

三十一番

丸

後人不知

わひきもふきあいにし名代の松は葉はむとひ星をそ

右勝

後人不知

三十四番

左

一人松の朝も小松よりしむもの

右勝

宗輔

はしあそのとら茶ばとのつねは年つる

左三ノ白イヒサマロレ松ハ朝も

右少エタリゆゑハ朝トキコエ

三十五番

左勝

方朗

らゝあしあきある中ゆゑ

右

後人不知

うりしむねハいつと松の葉乃ひと

左極道ハツラカ恵じヨラレトヨシヲセスニ白髪レルハカラ又ニテヨキ

白^{ミツ}サマタトナリ君トネノ日ノ契ヤヒカニトヤウニ三ハキハめしワテ松節

白ニヨシフムヘシ一ニニ作者ノカハ見エタリ

右ヲオナレ左勝ケラシ

三十六番

左勝

元尚

とひものあつと色ともも名代の松

右

後人不知

わらうあつとのね松のえのころも

左初白用ナシアトモイハネハトヒコ又ハ勿論ニニ句ヨリ下ニテ下タレリ但し

つぎに〜も申すは口をわ圓の角の

九四の言ハサルナレハヨセアル詞ニカクホシ

右ニ句ハテハ〜も松トセハ法句松カク風ノ方オモクナレテアリ九聊勝リ

四十番 寄水祝

九勝 九しん〜

むらふの島もほ〜君々代の〜わしむの舟乃水

右 九輔

君々代を名舟の傍あつれせ〜も舟わらひぬて〜

九望 九但し四鏡ともトスヘシ

右ニエスレ氏ニ句イサカワロシヨカラ〜感〜名舟の〜わらわらむ

九つふせぬ〜えん〜ナトアラ〜ホシ九イサカマサラムカ

四十一番

九持 九如

らゆりる小神代のおあえき〜はのま乃むおのあゆり〜

右 九し〜

ゆくわい〜つらとも君々代のも〜こぬ〜の末ハ〜

九玉 九水古おニアリヤフトハ見え

右ニ句せふ〜もトスヘシ持

四十二番

九持 九木

よの〜れりつりつ〜曲く水の〜きり〜きぬ君々代々

右

清方

ちりきてのへりくろもゆく水のほゆるゆ代よもくぬとれき(ハ
 丸なるミミテ水ノヨセナレ初ニ白ヲ伊鈴川ニうつさすトスベシ
 右初白ナレテノ人トハイヒカタレ初ニ白トスベシ

四十三番

丸

方訓

行初るくろそりたる清水ほゆるゆるゆ代はとれきをり
 右勝

尚親

はま石のゆきる名海の水清くきりゆりよのくみとれきは
 丸結白ノ糸モ上(カリテ語ノ切ル)丸ニテハカラスカニ初トノヒワロレゆる
 ヲむとくはてしなくとれきトスベシ

四十四番

丸

ゆし人新くは

君う代のつりゆきもきりる白川のあつのはてしなく色ハ
 右勝

ゆ来

と幾の風とほゆるゆ代のくみとれきはとれきをり
 左カキリトハテト言ノカサナルヲ、ケレテワラハシ又白川ノ水ノ流レハ
 アレハ賀言ニハイカ、し
 右河くはゆきもきりるそのひてゆりし勝ハカラし但し初白ハ吹
 見も三百ハウねナルヘキヲ

